

# やまぼうし通信

NO. 134 2024年5月1日

## 「当面する課題と山積する課題解決の道筋を探る」

りじちょう いたう いさお  
理事長 伊藤 勲

会員の皆様、2月に開催したやまぼうし理事会で、やまぼうしとミレットロードの事業提携の促進について大筋了解の承認をいただきました。その後、年度末から年度当初にかけて、ミレットロードの就労B型「共に働くたまたまばこ」の事業継続が困難な事態が急展開してきました。この間の経緯については、別紙「共に働くたまたまばこ」の創設から事業所移転に至る経緯と今後の対応」を各事業所に配布します。ご参照ください。

この間の「やまぼうし平山台」と本部関係者のご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。一方、やまぼうしの法人経営も、かねてより課題としてきた「中長期事業計画」の具体化を急がなければならない状況を迎えています。主要課題としては、「やまぼうし平山台」の移転先の確保を今年度中に目処をつけ、来年度には移転計画を具体化する必要が生まれてきています。また、グループホームも「げん」の移転先の確保を急がなければなりませんし、「日中活動支援型グループホーム」の土地の確保と建設計画をどう目処をつけるか迫られています。また、就労系事業所の複雑化する支援ニーズにどう対応するのか「くらしごと」の事業体制の見直しも含めて検討することが必要です。

今年度は、やまぼうしが創設20周年を迎えた時からの課題である「次の10年をどう展望するか」「次世代への承継をどうするか」の2つの命題を決める重要な年度となります。6月の定期総会がやまぼうしの命運を決める場になると考えています。いずれも、やまぼうし単独では打開出来ない事業課題です。「重層的多元的支援体制整備」の日野・多摩モデルの創出に向けて、新たな視点から今の「閉塞状況を打開する」想いと実践をどう共有していけるか、「進路選択の年」となります。

### 主要課題の進捗状況

#### 1【都立大の新たな販売拠点の確保とミレットロードとの提携作業が進展してきています】

・都立大学については、講堂本館が4月から改修工事で閉鎖されています。今後2年間の販売事業の拠点確保を都立大施設課に要請してきました。幸い年度末ギリギリで、本館近くの7号館1階の角に常設の販売コーナーを確保することができ、都立大と新たな業務委託契約を締結しました。

とても喜ばしい事ですが、通年で新たな販売拠点を維持する必要があります。現在の平山台だけでは困難であるため、販売体制をミレットロードとの連携により確保することができると考え、早急に実施体制を整備します。出来れば、講堂改修工事終了の2年後からも、カフェの営業スペースは現状と変わらないので、常設の販売コーナーは持続させる体制を保持させることが重要です。平山台カフェに代わる事業拠点になります。そのためにも、おちかわ屋との協働も含めて、魅力ある品揃えと販売スタッフのサポート体制を段階的に整備していきたいと考えています。

## 2【平山台からの事業撤退時期を早めなければならない状況への対応を進めています】



理事長が、平山台健康・市民支援センターを利用する団体へのヒアリングを行いました。

その結果、当初の令和10年度末での「健康市民センターの閉鎖」という市の方針を受けて、主要な事業所の対応方針がほぼ固まってきていることが確認できました。

- ① 障害児放課後デイ（社福おおぞら・元日野市事業団）は、東京都からは、耐震補強工事をしないのであれば、令和8年度末で事業継続許可は更新しないとの通知を受けているので、令和8年度末で事業廃止になる。いずれにしても、令和8年度末までには平山台での事業終了は確定しているとのことです。
- ② 平山台栄光保育園は、今年度はゼロ歳児の受け入れを停止した。来年度は1・2歳児の受け入れ停止をし、再来年度は3・4歳児の受け入れを停止することで段階的に事業縮小する方針です。
- ③ 「平山台文化スポーツクラブ」は、移転先の確保に全力投入されてきました。しかし、自処がたっていない。平山台の体育館・グラウンドのスポーツ部門の活動は可能な限り継続したい。新たな拠点づくりに期待している。
- ④ こうした状況下で、ミレットロードが、昨年来進めてきている「東邦歯科専門学校」での学生食堂の再開プラン協議との関連で、平山台の移転先の候補として、学校側との協議に入ることも視野に入れていくことを考えてはどうかと提起したいと思っています。

## 3【日野・八王子市の都市計画・地域福祉計画とどう連動していくのかを視野に入れる】

平山台健康・市民支援センターの跡地利用は、「日野市財政再建計画・第6次行財政改革大綱実施計画」の中で、令和10年度末を閉鎖とする目標年次を定めています。その上で、「これまで、施設が担ってきた機能を踏まえつつ、この地域に真に必要な機能・サービスについて検討をしていく必要があるとしていて、跡地利用を考える際は、校舎は日野市、校庭は八王子市にあり、市域をまたがっている状況であることから、日野市と八王子市の都市計画を踏まえつつ、既存の都市計画などの枠組みの中ではこれらを実現できない場合は、都市計画の変更など都市計画制度を柔軟に活用しながら実現に向けて取り組みを進めていく」となっています。

今後、平山台に隣接している八王子由木堀の内地区にある「鈴木牧場」の再開発構想との連動も視野に入れていくことが必要となります。すでに、鈴木牧場の体験農園を主要な活動拠点としている「里山耕房くらさわ」の活動拠点の維持継続と拡充（昼食・休憩の場の確保）も差し迫った課題としてあります。

以上